

文化財石垣保存技術協議会会報

令和5年（2023） 第30号 ー令和5年度事業報告ー

『文化庁日本の技フェア～文化財を守り続けてきた匠の技～』への参加

日 時 令和5年11月18日（土）・19日（日）

場 所 京都市勧業館 みやこめっせ 第3展示場

内 容 活動紹介パネル展示等



実技専門研修2

日 時 令和5年12月8日（金）～10日（日）

場 所 香川県小豆島町

研修生 技能会員3名

内 容 現地調査、実技実習（鍛冶による道具作り等）



原 稔樹(技能会員)

今回小豆島の鍛冶、矢穴、丁場見学の研修をさせていただき、鍛冶、矢穴研修において、様々な道具の使い方、火のおこし方、石頭の振りかたから叩き方、ノミの作り方、焼き入れの仕方、自分たちの道具に対する姿勢、基本のところから細かいところまで、丁寧にわかりやすくご指導いただき、大変勉強になりました。

これから教えていただいたことをしっかりと自分のものにしていき、精進していきたいと思います。小豆島研修に参加させていただきありがとうございました。

また丁場、資料館見学において、自分たちが使っている道具がどのような道具で、どのようにして作られ、どのように使われていたのか、その過程、歴史を深く知ることができました。

今回の研修で学んだことを、出来なかったことが出来るようになった喜び、知らなかったことを知れること、もちろん技能面もなんですが、そういったこともまた次の世代へ、次の世代へと引き継いでいけるようにもっともっと勉強していきます。

会社の方にも鍛冶場を作っていたいただいているので、もっともっとより良いものを作れるようになり、自分のために、そして会社のために落としこんでいけるようにしたいです。

後継者育成研修 洲本城

日 時 令和5年12月14日(木)～16日(土)

場 所 兵庫県洲本市 史跡洲本城跡

研修生 技能会員2名

内 容 石垣解体作業



小野 雄大(技能会員)

洲本城は秀吉の時代に今の形に完成し、徳川の時代に入っすぐに廃城になりました。廃城になって約400年が経過しても、石垣がほぼ原型を保っていることにまず驚かされます。洲本の街から見ると、城跡の規模は森に覆われており、よく分からないのですが、城の近くまで登るとかなり大きなお城だったことがわかります。洲本城の石垣に使用されている石は、石目がわかりにくい砂岩で、お城の近くで切り出されています。西の丸の遺構にも石切場の痕跡が多く残っていました。洲本城の特徴の一つは、2箇所にある見事な登り石垣です。樹木に覆われてふもとからは中々見えませんが、近くで見ると迫力があり、他の城跡ではあまり見られない石垣です。もう一つの特徴は多用される石垣のシノギ角(90°以上の角度)。横から見るとすみ石の稜線が見えますが、正面から見ると稜線が分かりづらいのがシノギ角すみ石の特徴です。洲本城の修復に携わっている栗田さんによれば、石垣を修復する際、稜線を構成する角石が分かりづらく、通常の90°に近い出隅より積み直すことが難しいそうです。これらの特徴が修復の難易度を上げているとのこと。

さて、今回は栗田建設さんの手がける石垣修復の解体にお邪魔しましたが、解体と言っても、発掘調査に従う手間と時間がかかる作業です。まずは一つ一つ手作業で土を払い、グリ石の入り方や構造、距離を一つ一つ丁寧に写真で記録に撮っていきます。次に大きな積み石を記録に撮り、ナンバーリングをつけていく。その時交換が必要なほど傷んだ石は表面の形を記録してから、一つ一つ丁寧にクレーンで外していきます。一つ上の石をある程度外さないとな次の石垣の構造が見えてこない。そこで今まで無い構造や遺構が見つければ、調査員の調査が入ります。さまざまな要素が絡み合っていて新たに石垣を積み直すことより何倍も時間と労力を使う。それが文化財石垣の修復工事なのだなと、あらためて思いました。何となく写真や座学で学んでいたのですが、本当の内部の構築している構造物をこれほどまでに丁寧に扱っていくのは、実際に現場でやってみないと中々わからないものです。この経験を今後活かしていければと思います。

実地研修（第19回全国城跡等石垣整備調査研究会 姫路大会）

日 時 令和6年1月25日（木）～27（土）
 場 所 兵庫県姫路市（イーグレひめじ あいめっせホール・特別史跡姫路城跡他）
 受講者 技能会員、技術・研究会員、一般会員、賛助会員 85名
 テーマ 『文化財石垣修理20年の蓄積と今後の展望』
 主 催 文化庁 姫路市・姫路市教育委員会 共 催 文化財石垣保存技術協議会

研究会内容

令和6年1月25日（木）

開会宣言 (挨拶)	田中 哲雄（日本城郭研究センター名誉館長）
主催者挨拶	清元 秀泰（姫路市長） 山下 信一郎（文化庁文化財監査官）
共催者挨拶	和田 行雄（文化財石垣保存技術協議会会長）
趣旨説明	小野 友記子（文化庁文化資源活用課）
基調講演	本中 眞（奈良文化財研究所所長） 「城跡等の石垣の保存・活用 一過去・現在・未来一」
報告①	小柴 治子（姫路市教育委員会生涯学習部城郭研究室） 「特別史跡姫路城跡の石垣保存修理一過去10年の報告と課題一」

令和6年1月27日（土）

現地見学	特別史跡姫路城跡他 現地視察
------	----------------



吉田技術・研究会員の報告

令和6年1月26日（金）

報告②	佐々木 亮二（盛岡市都市整備部公園みどり課） 「盛岡城跡三ノ丸北西部石垣修復工事について」
報告③	藤本 透（佐用町教育委員会教育課） 「史跡利神城跡石垣等の保全」
報告④	吉田 久美子 （文化財石垣保存技術協議会 技術・研究会員） 「佐賀・長崎における石橋等の保存修理工事事例報告」
報告⑤	藤本 昇（文化財石垣保存技術協議会 技能会員） 「経験を伝える繋ぐ（研修での取り組み）」
情報提供	岩井 浩介（文化庁文化資源活用課） 西岡 聡（文化庁文化資源活用課） 「文化財石垣耐震診断指針について（中間報告）」
パネルディスカッション	「文化財石垣保存修理20年の歩みとこれから」 ○コーディネーター： 富田和気夫（石川県教育委員会金沢城調査研究所所長） ○パネリスト： 北垣聡一郎（石川県金沢城調査研究所名誉所長） 北野博司（東北芸術工科大学教授） 西形達明（関西地盤環境研究センター顧問） 本中 眞（奈良文化財研究所所長） 和田行雄（文化財石垣保存技術協議会会長）
総括	岩井 浩介（文化庁文化資源活用課）
次期開催地挨拶	大塚 紀宣（福岡市経済観光文化局文化財活用部）
閉会挨拶	西田耕太郎（姫路市教育委員会教育長）



藤本幹事の報告



現地見学の様子

伊藤 洋治(技能会員)

今回の研修で最も良かったのは国宝姫路城の関係者以外立ち入り禁止区域に北垣先生の解説付きで見学できたことです。驚いたのは国宝ともなれば全ての石垣の調査や写真撮影、データ化など済んでいると思っていましたが、あまりの広大な敷地と面積であるため、見学コースから外れた北面などは樹木が邪魔をしてドローン撮影も出来ず、足場の悪い所はまだまだ手付かずだったことです。

当時のまま残っているとも言えますが、何力所か見た内部はかなりスカスカになっていて危険に見えたので、調査後に甲府城で現状維持として行った単粒補充、詰石工事などを検討していただけたらと思います。隙間に生えた草などは自衛隊の協力で除去しているかも知れませんが、文化財なので作業中の詰石の脱落など心配です。地震大国なので出来るだけ健全な内にもしもの時のための情報収集と後世に残していくための保守などがされることを切に願います。

今回の視察の目玉の一つでもある転用材の位置と据え付ける向きについては参加者の中で議論しましたが、背面構造、内部での周りの石との接点など見えないので想像で私見ですが、宗教的な事は特に留意せず見栄えより安定する向き、状態で据えたのではなかろうかと思考します。

今後の仕事については北面で見たような築城時の雰囲気の安定重視で工期と準備した石の都合もありますが、あまり作りこみすぎず、ねじって捻って押付けつつも未永く残る石積みが出来たらと思います。

記録保存事業

【現地調査】

期 間 令和5年5月14日(日)

場 所 東京都千代田区

内 容 記録保存事業(石垣構造小部会)
小林元副会長への聞き取り調査

【打ち合わせ①】

期 間 令和5年9月30日(土)

場 所 東京都千代田区 (株)文化財保存計画協会

内 容 記録保存事業実施計画立案進捗状況の
報告と指導

【打ち合わせ②】

期 間 令和6年3月16日(土)

場 所 姫路市 日本城郭研究センター

内 容 記録保存事業実施状況の報告と指導



打ち合わせ②の様子

■新規加入会員紹介

会員区分	氏 名	所 属
技能会員	樋口 亨	(有)トガミ
技術・研究会員	山口 干城	大村市役所
	村上 慶介	名古屋市観光文化交流局
〃	中村 剛彰	佐用町教育委員会
〃	杉本 知史	国立大学法人 長崎大学
一般会員	小林 恵	応用地質(株)
〃	白木 秀典	いよせき(株)
賛助会員	(有)鷺之山石材商会	
〃	(株)フジタ	

■文化財石垣保存技術協議会会員数

(令和6年3月1日現在)

技能会員	174名
技術・研究会員	130名
一般会員	52名
賛助会員	21法人
評議員	9名
合 計	386名(法人含む)

発行年月日 令和6(2024)年3月31日

編集・発行 文化財石垣保存技術協議会

事務局住所 〒670-0012 姫路市本町 68-258

日本城郭研究センター内

TEL 079-289-4877 FAX 079-289-4890